

# 令和2年度 思いやりデイサービス 事業報告書

## 1. 運営状況の概要

富士市の委託による生きがいデイサービス・健康づくりデイサービスは、平成30年度から、要支援2の方を除き週1回の利用のみとなった。

しかし、週2回の利用を望む利用者が多く、その要望に応えるため、社会福祉法人としての社会貢献の観点から、鑑石園独自のサービスとして思いやりデイサービスを始めた。

平成30年6月から正式に開始し、平成30年度の1回あたり平均利用者数は7.68人となった。しかし利用者が高齢のため、逝去される方、要介護の認定が出て思いやりデイサービスが利用できなくなる方が続出し、本年度の1回あたり平均利用者数は4.00人となった。

## 2. 事業計画実施状況

### (1) 職員資質の向上

#### ① 法人理念・職員信条について

法人理念・職員信条を毎朝礼時に唱和し遵守する事で、高い意識と自覚のもと業務にあたった。

#### ② 研修について

思いやりデイサービスは鑑石園独自の事業であるため、特別な研修はないが、内容的には生きがいデイサービス・健康づくりデイサービスとほぼ同じため、生きがいデイサービス・健康づくりデイサービス関連の外部研修や内部研修へ積極的に参加し、自己研鑽に努めた。

ただし新型コロナウイルスの影響で、例年より研修自体少なかった。出席した主な外部研修は以下の通り。

11月	健康づくりデイサービス・生きがいデイサービス従事者研修	富士市保健部 高齢者支援課主催
-----	-----------------------------	--------------------

### (2) サービスの向上

#### ① 相談援助などの生活指導

利用者及び家族とのコミュニケーションを重視し、気軽に相談を寄せて貰えるような関係づくりに努めた。また、利用者が家族と良好な関係を保ちつつ、自宅で快適な生活を送ることができるよう、高齢者地域支援窓口や地域包括支援センター、原田清流クラブの担当者と連携を

とりながら、できる限りの支援を行った。

② レクリエーション・趣味活動他

利用者の希望や趣向を取り入れたプログラム内容を実施することにより、利用者が楽しみながら活動に参加し、自ら介護予防にむけた主体的な取り組みができるよう支援した。

また、日常生活でもできるような介護予防運動を毎回行い、利用者の全身の機能の向上に努めた。

③ 健康状態の確認

個々の利用者の身体的な特徴を事前に把握した上で、毎朝利用開始時に健康状態を確認し、サービス提供中も常に気を配った。

健康面に不安のある利用者に関しては、施設内の医務、主治医や歯科医師とも連携をとる体勢で臨んだ。

④ 利用者とのコミュニケーション

利用者と積極的にコミュニケーションをとり、利用者が主体的に事業へ参加するよう働きかけた。

⑤ 送迎

送迎を必要とする場合は、施設車輛にて自宅から施設まで送迎を行った。

⑥ その他

介護技術の進歩に合わせて、適切な介護予防が行われるように配慮した。

(3) 広報

「生きがいデイサービス」又は「健康づくりデイサービス」を既に週1回利用している方、又は新規利用を考えている方で、週2回の利用を希望される方に対して思いやりデイサービスを紹介した。

「生きがいデイサービス」、「健康づくりデイサービス」の広報活動を行う際、思いやりデイサービスの事業内容についても紹介した。

(4) 補足

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が制限されたため、活動内容は体操・脳トレ・利用者同士の会話に限定された。